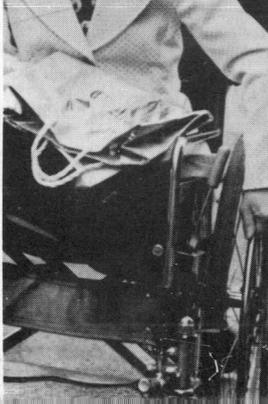
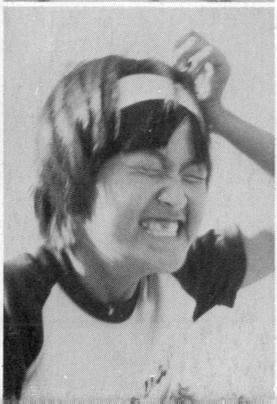
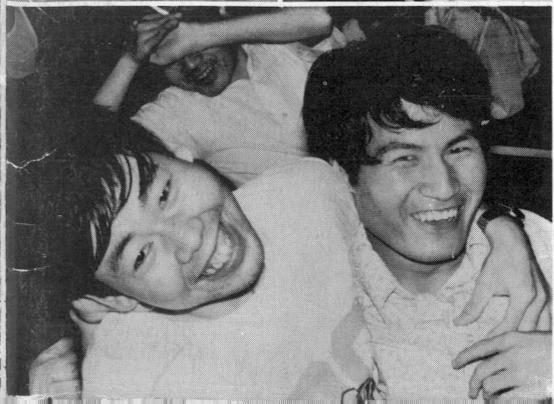
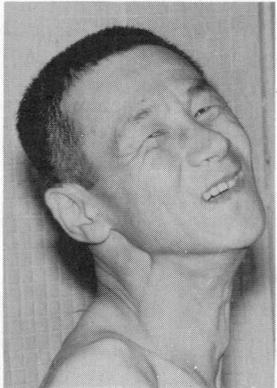
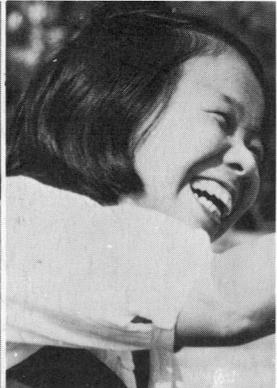
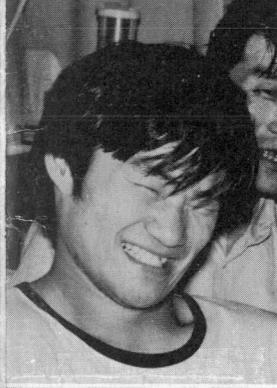
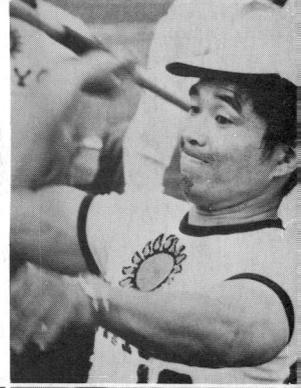


創立15周年記念写真集

太陽の家



あいさつ

私は、身障者には「保護より働く機会を」と訴え続けてきた。いたずらな保護は人間をスポイルし、駄目な人間を作るのにほかならない。福祉とは何かということが最近よくいわれるが、豊かな経済力による過保護がそれでないことは、もはや疑う余地がない。人間が如何にして生甲斐を得るかということであろう。

わずか10名の車椅子の人達と共に、小屋がけの中で竹細工の仕事を始めてからもう15年になる。2,000円の初月給を手にして、感涙に咽んだ昔がなつかしい。太陽の家に働く仲間も500名になり、年商40億円と、皆さんのお陰で大きくなったものだ。又、社会への融合をめざしてスーパーマーケット・銀行・レストラン等第三次産業にもどんどん進出した。亀川の町の人々と身障者が自然に仲よく生活している姿こそ真の福祉社会のあり方だと思う。

一日にして太陽の家はできたのではない。この写真集で先人の血の滲むような努力をしのび初心にかえって、よりよい社会づくりに健康者以上の貢献をしなければならない。



理事長

中 村 裕





むぎの会々長

吉松時義

あいさつ

“保護より機会を”をモットーに身障者の自立の場としてスタートし、年々大きく発展を続ける太陽の家には、15年目の今日も鐘音が聞こえる。新しいものの誕生である。人は移り、建物は変る。絶え間ない鐘音、年月の影に古きものが消えてゆく。ひとつひとつの積み重ねの上に今日があるとすれば、その過ぎ去ったものを今一度呼び起こし、見つめ直し、明日への糧とすべきであろう。我々むぎの会々員は、太陽の家を働く場、生活の場として日々過ごしている。楽しみを感じ、喜びを感じ、満足感を味わうには、自分のこと、友のこと、仲間のこと、家族のこと、職場のこと、働くこと、太陽の家のこと、地域社会のこと等々に多くの興味をもち、自ら常に求めて考え、行動することではなかろうか。

これからの太陽の家について、写真で時の流れを読みながら考えてみたい。



40

「身障者に働く機会を！太陽を！」を
モットーに昭和40年10月5日、太陽
の家は開所した。

蓮池にとりかこまれた、小野田セメ
ントの保養所跡をゆずり受け、15名
の身障者たちが、生産活動を始めた。



▲テープカットをする木下大分県知事(右)と高安初代理事長(左)



▲あいさつをする「太陽の家」の
名付け親 水上勉理事



▲作業員を代表して謝辞を述べる
須崎さん



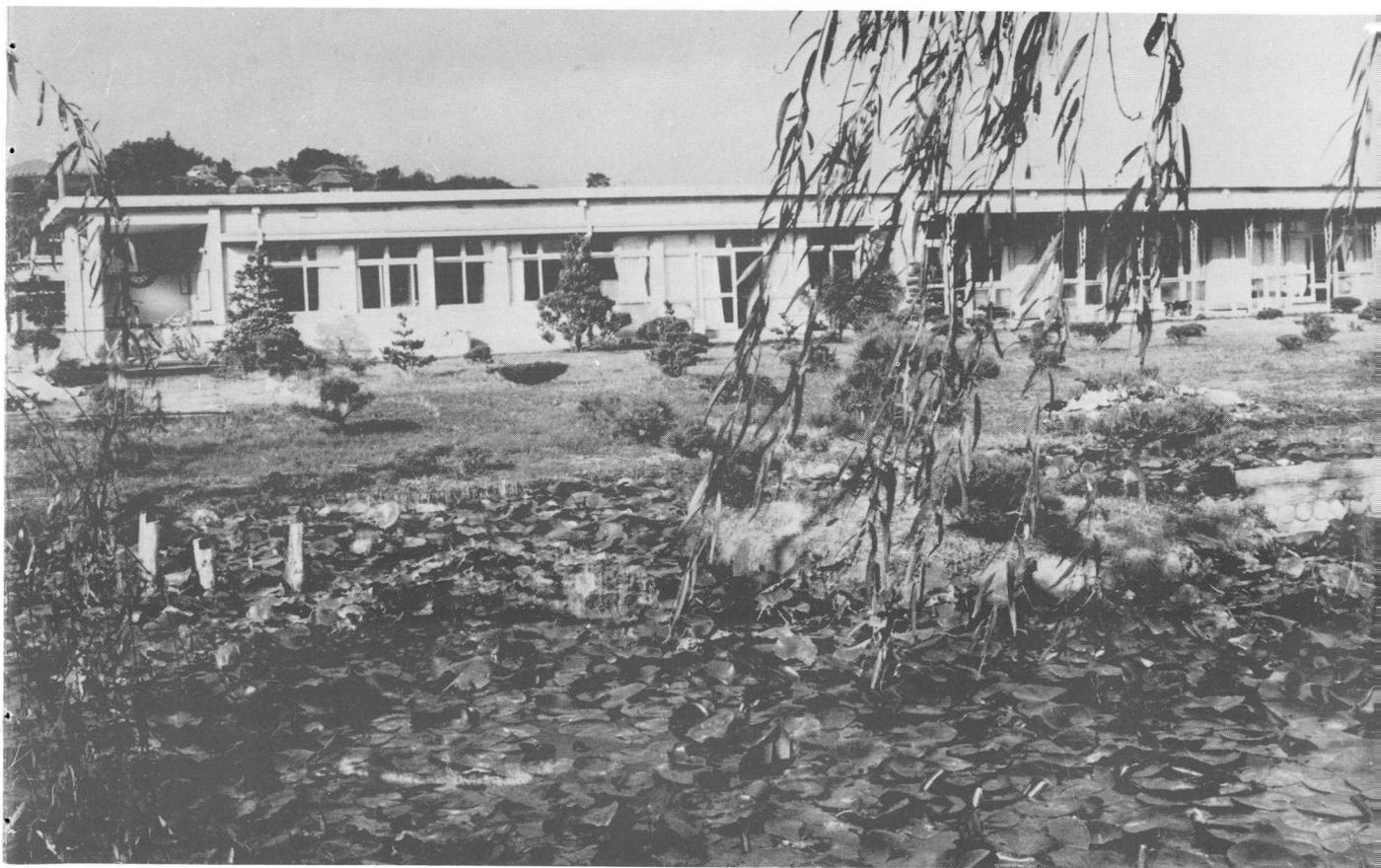
開所式参列者への所内開放(金工部)▶



▲当初は貧しくて旧海軍の食器をもらい受けて使っていた



▲グッドウィル方式大失敗



▲旧本館全景 この蓮池の上に現在職能開発センターがある



▲日本、人的機能活用センターと読む



▲旧 玄 関

41~2

国や、いろいろな団体からの援助を受けながら、着々と施設が整備されていった。企業導入や労働研究も積極的に進められ、建設の歩みは次第に活発さを加えてきた。

41/4, むぎの会の前身、木の芽会が発足、身障授産施設に指定された。(定員34名)



▲天皇、皇后ご来訪



▲洋裁部



▲竹工部 盛りカゴ製作



▲寮生自治会木の芽会機関誌「むぎ」



▲印刷部 この機械は今も使っている



▲ 皇太子ご夫妻 話しを受ける故高崎さん



▲ 高安慎一初代理事長、中村常務理事、水上勉理事



▲ 金工部 パイプ椅子生産



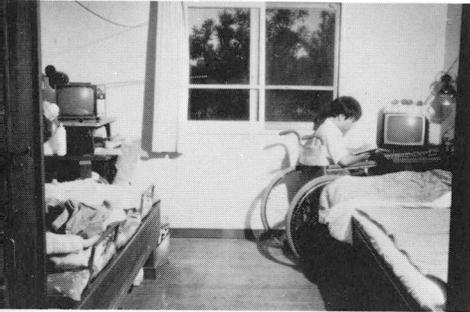
▲ 縫製部 パイプ椅子のシートレザー縫製



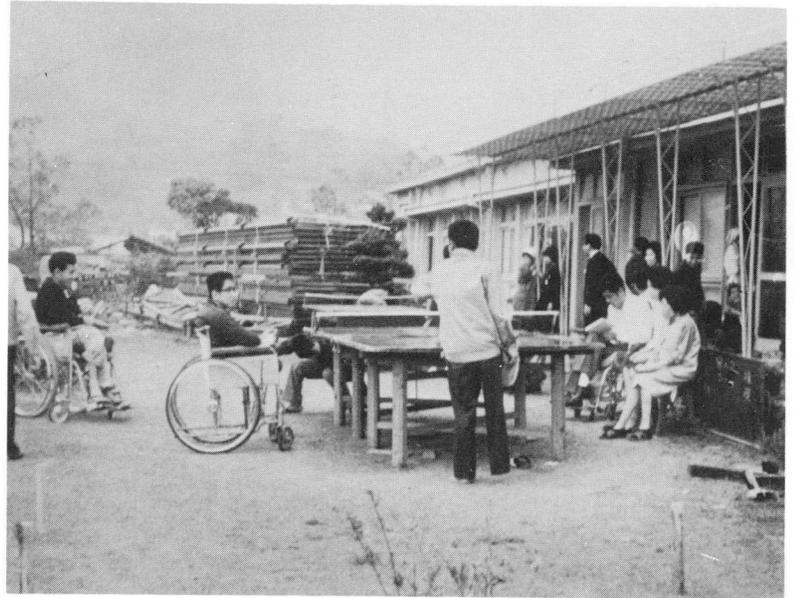
義 肢 部 ▶



▲結婚第1号 姫野さんと船城さん



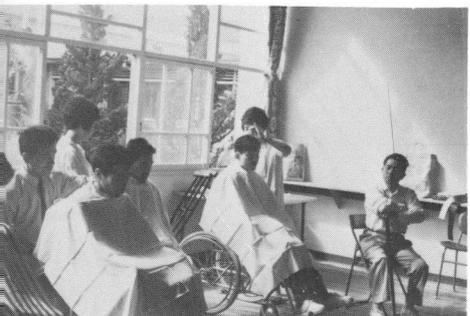
▲由布寮々室



▲くつろぎのひととき



▲図書室



▲理容風景



▲クリスマスパーティ



▲1周年を記念して宇佐神宮参拝



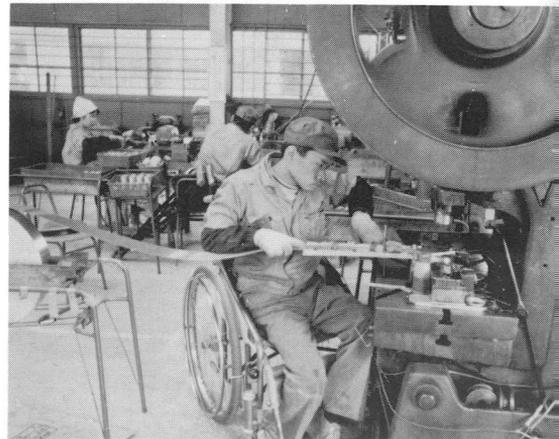
▲ 朝 礼 風 景



▲ 第 2 工 場 オ ー プ ン



▲ 木 工 部 シャープヤグラコタツの組立て



▲ 金 工 部 ミノルタレンズキャップのプレス



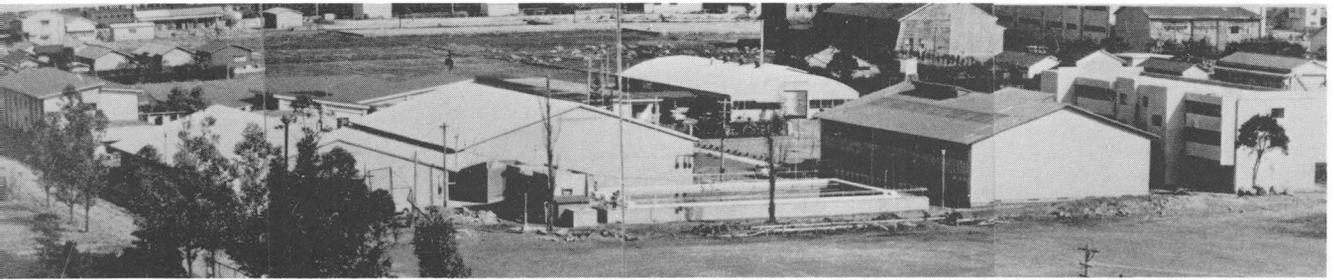
◀ クリーニング部 基準寝具の洗濯

43

海外からの研修生も迎えられるようになり、体育その他のクラブ活動も芽をふくらませ実を結んできた。



▲ 桜寮完成 手前の草原にはいま本館などが建っている



▲ 国立別府病院からみた全景（S43当時）



▲ 韓国聖世再活院生が来所 ▶





▲ 常陸宮ご夫妻来訪



▲ 機能回復・強化に励む岩田君



▲ 不在者投票ができるようになった



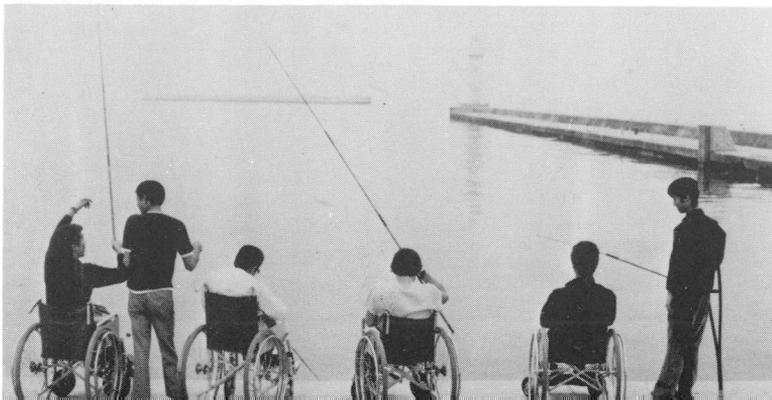
▲ 大分県身障者体育大会 梁川団長を先頭に



▲ サニー・エコーズの演奏にのって



▲ 運動会 こんな時代もあった



◀ 観光港でつりを楽しむ

44

スポーツで海外進出も活発に！
全員でのレクリエーションがで
きたのも、この頃までだった。



▲ 李方子妃来訪 案内は畑田理事



▲ 太陽の家から初めてストックマンデビル競技大会に出場



▲ 電器科発足 スピーカーのボイスコイルを生産



▲ プラスチック科 射出成形



▲城島高原でキャンプ



▲もちつき



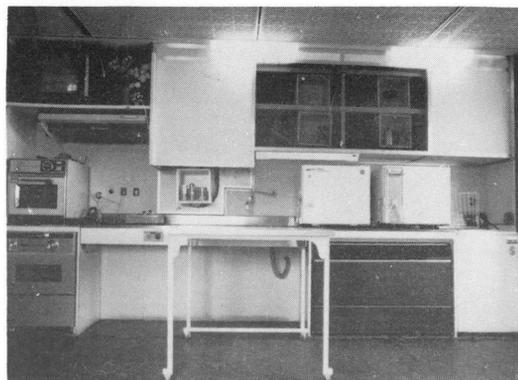
▶笑顔で消火訓練

45

授産科目の変動も社会状況と共に。
竹工科・電器科廃止，金工科田島が発足した。



▲本館工事中



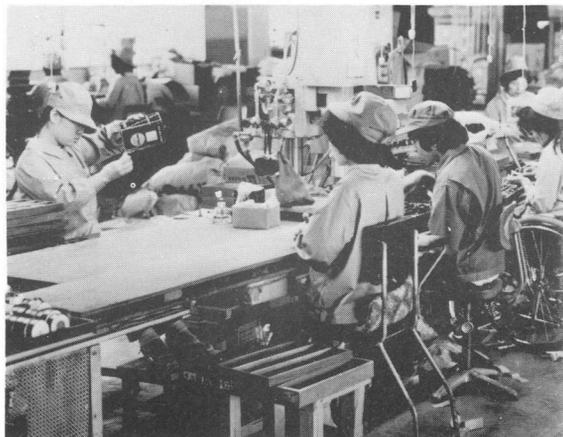
▲身障モデル住宅 テトラエース完成



▲第2プラスチック科(マネキン)



▲金工科(巻込み機のひじスイッチ)



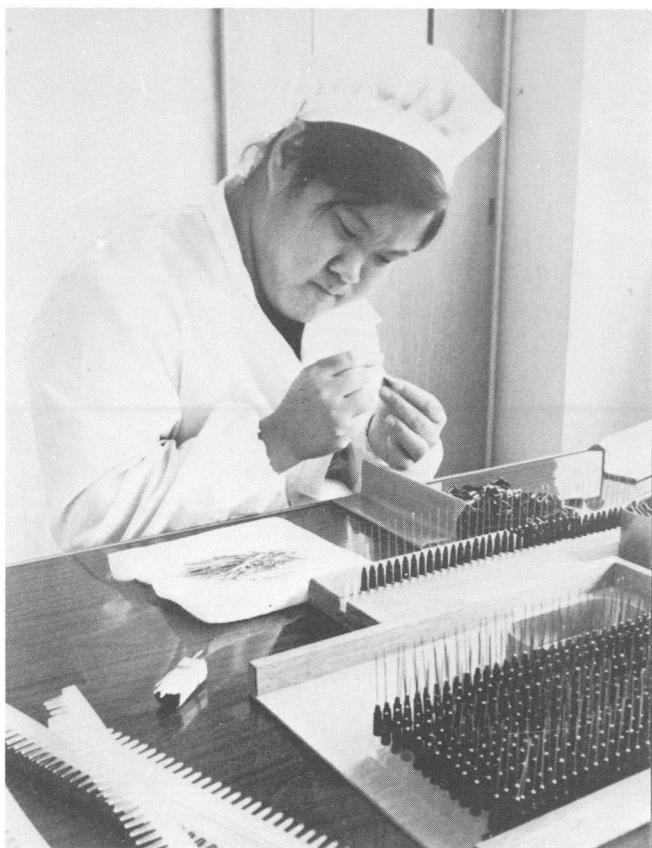
▲金工科(田島巻尺ライン)



▲ 本館完成

46

医療機器科、木工科（サンアップ・唐木）が発足した。



▲ 医療機器科(使い捨て注射針)



▲ 写真クラブ両子寺で撮影会



▲ 韓国の施設を訪問



▲ 木工科(神棚)



▲ 木工科(唐木家具)

47

太陽の家の新たなる歩みをふみ出した年だった。
立石電機(株)の協力でオムロン太陽電機(株)設立と
共に、全国で最初の福祉工場が発足した。



▲ あらたなる出発



▲ オムロン太陽電機株立石社長のあいさつ

▼ 近代化された工場

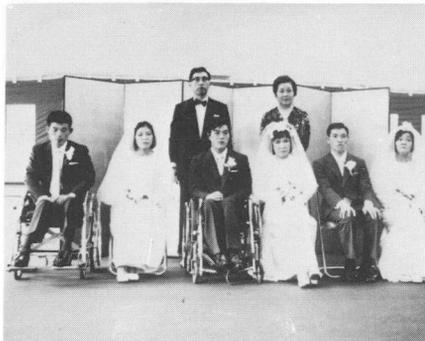




▲ユニークソーシャルダンス



▲研修センター落成(いこいの家)



▲“幸せはあなたとともに”研修センターで3組合同結婚式

48

文化祭，別府ガイドの発行などを通し，
地域社会との接触・交流も活発になっていった。



▲ みんなで歩いて作った「別府ガイド」



▲ 第 1 回 文 化 祭



▲ いろんな出店もあった

▼ オーストラリアセンターインダストリーの
マクレオド氏とヒューム氏が来所



▼ トキハデパートの身障トイレオープン



▲ 園芸科 杵築農園



49



▲保育室も完備されて

結婚～出産

アパートから保育室まで必要になった。



▲森市次さん一家の団らん



西日本ブロックバスケットボール大会で▶
太陽の家チーム初優勝



▲特機科ソニーでラジオの組立て始まる



▲第3回全国身障者技能競技大会で
杉尾君が施盤の部3位



▲中国からスポーツ視察団来る



▲特産科 しいたけの袋詰め



▲韓国から5名の研修生



▲工芸科 つげ細工



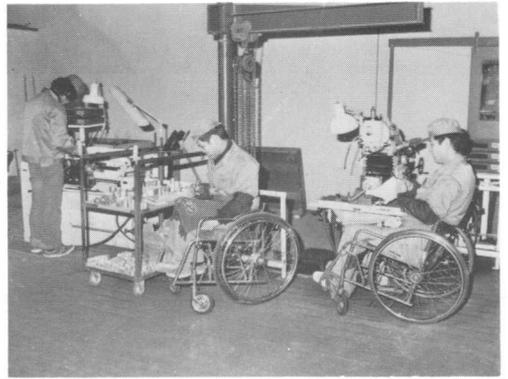
▲ 18ヶ国690名の障害者が参加して第1回フェスピック大会が大分・別府の両市で開かれた。



▲ 太陽の家を見学する外国選手

50

10周年を迎え新たなる飛躍を期して！
仕事にスポーツにそして社会参加も幅
広く、意欲あふれる充実した年となっ
た。



誕生 議市のイス車

大分合同新聞
別府市の吉永さん 全国初めての快挙



身障者福祉モデル都市にふさわしく別府市に車イスの市議が誕生した。大陽の家役員吉永栄治さん(28)だ。二十八日午前二時すぎ、投票の夢がかなった新市議を取り巻いた支援者、身障者の仲間たちは、最初のうろた国でも初めての快挙に喜びをこぼしてよいのか戸惑っていたが、やがて涙と万歳の歓声が響くようになった。

開票が進んで午前一時すぎ、流川通りに面した選挙事務所には支援者や中村裕太郎(36)の家族ら約六十人が駆けつけ、かか。

身障者福祉モデル都市にふさわしく、吉永さんは車イスの上で「みなさんの理と支援に力をつけてほしい」と述べた。市代表として市の福祉政策の充実に力を入れた」と涙目で語った。思わず頷いた上半身を郭子夫人(36)が支えた。万歳の大合唱の中、女性の身障者が感激のあまり、うたがれてシッと目かした。おまわりを押し退けた。この初めての身障者市議を迎える別府市議会は、選挙事務所入り口などの物置に

▲ 吉永栄治別府市議会議員となる



▲ 10周年を迎えた太陽の家全景

太陽新聞編集会議 ▶



▲ 太陽新聞



▼ 訪れた水上勉理事を囲んで





▲アマチュア無線クラブ発足

51

明るく清潔な職場環境をめざした活動
がなされた。

高血圧の啓蒙講座も開かれ、健康への
意識が高まってきた。



▲工芸科カナクラ金箔作業



◀別大マラソンの朝別大国道を歩こう会に参加9名

52



▲ トンガからの研修生も歌い踊る

仕事を終えての通学は
大変な努力。

トンガの研修生は明る
く、たのしい人たちで
した。

第三次産業への進出は
画期的なことである。

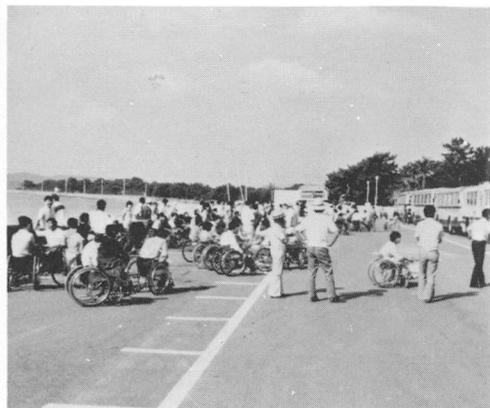


▲ 県立定時制高校に通う丸山君



▲ 地域の人々も参加して将棋大会

▼ 全員で住吉浜へレクリエーション





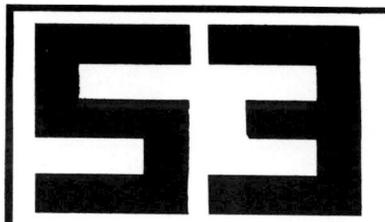
▲ スーパーマーケット「サンストア」オープン

車いすのレジ係 ▶



フェスピック選手団オーストラリアより帰る





11月には人工透析の人たちも仲間に入ってきた。

▼ 職 班 長 合 宿 研 修 会



▼ ロ ー ド レ ー ス



▲ 精機科 スピードメーター組立て



▲ サンインダストリー(株)設立
オーディオ製品組立て



▲ 職業開発センター落成



▲ 水泳教室始まる



▲ 衛生週間バドミントン大会



▲ ミチコとスカイセンサー



▲ 忘 年 会

54

施設整備はますます発展充実し、止まるところを知らない。



▲ 県立定時制高校を卒業 同級生とよこびを分かちあう田部君



▲ 国際児童年抛金の協力バザー



抛金30万円を集めた

SS

外国から来ても、その対応姿勢にはすっかりなれている。コミュニティ・センターの計画も形を現わしてきた。



大分県身体障害者スポーツ大会の20周年を記念して外国選手を招待、技能競技大会も開かれた。太陽の家では、地域の人々も参加して歓迎会が行なわれた





▲ 大分銀行太陽の家支店開店



▲ 車いすに合わせた設備もある銀行内部



◀ 地域の集会場を3階にもつコミュニティセンター
1・2階が銀行支店

▼ コンピュータプログラマー養成講座





15年のあゆみ

〔40〕

1 . 5

開所…15年の歩みの第一歩

{ 竹工(45/5 閉), 義肢(44/9 閉)

{ 金工(パイプイス他), 木工(リハビリ機器)

〔41〕

2 . 14

社会福祉法人認可

4 . 1

身障者授産施設に指定さる(定員34名)

<→54/4, 定員110名>

木の芽会(むぎの会の前身)発足

〔43〕

7 . 1

不在者投票実施…77名

〔44〕

4 . 27

木の芽会と事務局全員のレクリエーション

(城島高原)

10 . 20

「太陽の家の記録」(NHKブックス)出版

〔46〕

4 . 18

本館落成(6階建)

6 . 1

重度授産施設に指定(定員83名)

<54/4, 定員145名>

5 . 3~7

韓国訪問(理事長夫妻他14名)

10 . 16

機能開発センター開設

〔47〕

1 . 15

市成人式で意見発表(近藤秀樹)

7/25~8/12

第4回パラリンピック参加

(理事長, 田中(慶), 梅田)

〔48〕

1 . 15

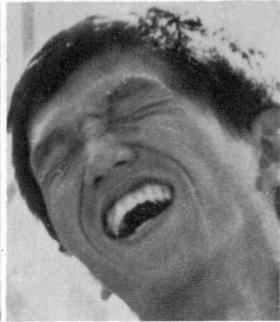
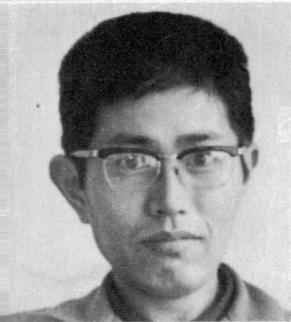
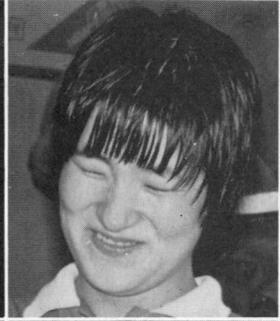
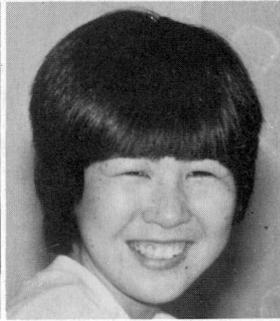
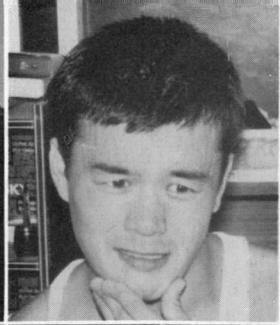
市成人式で意見発表(御前照夫)



▲勢揃いした太陽の家の仲間たち

- 3 . 5 むぎの会発足
- 7 . 30 太陽新聞創刊
- 11 . 10~16 最初の文化祭開催
- 11 . 11 ハンディキャップ「べっぶガイド」発行
- [49]
- 6 . 29 サン・インフォメーションセンター開設
- 9 . 2 保育室開設
- 12 . 韓国研修生受入5名…(1ヶ年)
- [50]
- 4 . 28 吉永栄治氏市議当選
- 5 . 29 第1回、フェスピック開催
- [51]
- 7 . 27 第1回(障)オリンピアード参加
- 11 . 5 第1回太陽祭開催
- [52]
- 11 . 13~23 第2回フェスピック(オーストラリア)参加(選手・応援団)

- [53]
- 4 . 27~5 / 1 韓国訪問旅行…24名
- 7 . 19~8 / 4 第27回 ISMG 参加
- [54]
- 4 . 5 職能開発センター落成
- 7 . 16 第28回 ISMG 参加
- 8 . 国際児童年に拠金…30万円
- [55]
- 5 . 16 県身障者スポーツ20周年記念国際技能競技大会開催
- 18 「ざ・よっちょいで」開催
- 7 . 9 大分銀行太陽の家支店誘致
- 10 . 15 創立15周年記念日



創立15周年記念写真集 太陽の家

発行日 昭和55年10月5日

発行 別府市亀川 太陽の家むぎの会

責任者 むぎの会会長 吉松時義

印刷所 電子印刷センター 太陽の家工場

